

### 10.3.1 ボーリング交換用データ ⇒ OCU Geomodeler 入力データ変換処理



図-10.3.2 ボーリング交換用データ ⇒ OCU Geomodeler 入力データ変換処理ページ

#### (1) 前提条件

本処理を行う前に以下の条件をクリアする必要がある。

- ① 簡易版ボーリングモデルの属性データ仕様に則り、ボーリング交換用データ(XML)の「<地層岩体区分>」タグに所定の地層情報を登録しておく必要がある。
- ② 各「<地層岩体区分>」タグに地層情報を登録する際に使用した「地層岩体区分凡例」を一覧表形式にした「地層データ(パラメータデータ)」を用意する必要がある。なお、このパラメータデータは、「10.3.8 パラメータデータの作成」で作成することができる。

参考として、簡易版ボーリングモデルデータ(ボーリングデータの「<地層岩体区分>」タグに記録されている情報)を表-10.3.1 に示す。

表-10.3.1 簡易版ボーリングモデルデータ(例)

<pre> &lt;地層岩体区分&gt;   &lt;地層岩体区分_上端深度&gt;0.00&lt;/地層岩体区分_上端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_下端深度&gt;1.10&lt;/地層岩体区分_下端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_地層岩体名&gt;B&lt;/地層岩体区分_地層岩体名&gt; &lt;/地層岩体区分&gt; &lt;地層岩体区分&gt;   &lt;地層岩体区分_上端深度&gt;1.10&lt;/地層岩体区分_上端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_下端深度&gt;17.80&lt;/地層岩体区分_下端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_地層岩体名&gt;AU&lt;/地層岩体区分_地層岩体名&gt; &lt;/地層岩体区分&gt; &lt;地層岩体区分&gt;   &lt;地層岩体区分_上端深度&gt;17.80&lt;/地層岩体区分_上端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_下端深度&gt;19.70&lt;/地層岩体区分_下端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_地層岩体名&gt;AV&lt;/地層岩体区分_地層岩体名&gt; &lt;/地層岩体区分&gt; &lt;地層岩体区分&gt;   &lt;地層岩体区分_上端深度&gt;19.70&lt;/地層岩体区分_上端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_下端深度&gt;27.90&lt;/地層岩体区分_下端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_地層岩体名&gt;AD&lt;/地層岩体区分_地層岩体名&gt; &lt;/地層岩体区分&gt; &lt;地層岩体区分&gt;   &lt;地層岩体区分_上端深度&gt;27.90&lt;/地層岩体区分_上端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_下端深度&gt;35.00&lt;/地層岩体区分_下端深度&gt;   &lt;地層岩体区分_地層岩体名&gt;DG&lt;/地層岩体区分_地層岩体名&gt; &lt;/地層岩体区分&gt; </pre>
---

具体的には、図-10.3.1 に示すテンプレートを参照されたい。

## (2) 主な機能

- ・南北・東西座標を自動計算：ボーリングデータの緯度・経度情報から、直交座標系（全国19系）のXとYの各座標値を自動計算する。ただし、国土地理院のAPIを使用しているため、インターネット環境が必要である。
- ・各地層面の標高を自動計算：〈地層岩体区分〉の高さは「孔口からの深度」であるため、ボーリングデータの標題情報に記載されている孔口の標高を参照して、地層境界面上の先端標高を自動的に計算する。
- ・地層が存在しない場合の処理：「6.5.2 章」に記載した条件に合致した場合、孔底の標高を当該地層区分（層序）の標高にすると共に「1=-1」を代入する。
- ・データの出力形式：「2.3 Terramod\_BS による地層境界面の三次元形状推定処理」の入力データファイル(X, Y, Z, 1 形式)に準拠している。

## (3) 地層データ（パラメータファイル）の選択方法

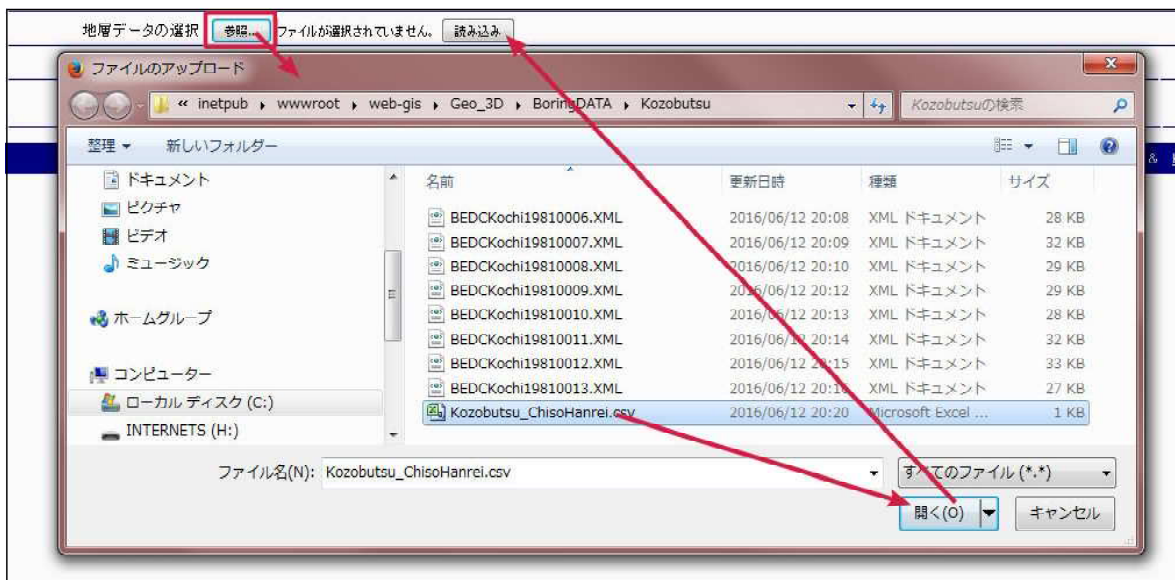


図-10.3.3 地層データファイルの選択

- ・[地層データの選択]と表示されている部分の右にある[参照]ボタンをクリックすると、図-10.3.3 のようにファイル選択用のダイアログボックスが表示される。
- ・地層データファイルを1つ選択して[開く]ボタンをクリックする。
- ・そのファイル名が表示されたら、[読み込み]ボタンをクリックする。
- ・図-10.3.4 のように、地層データの登録内容（地層区分と、平面直角座標系の系番号）が表示される（赤枠内）。

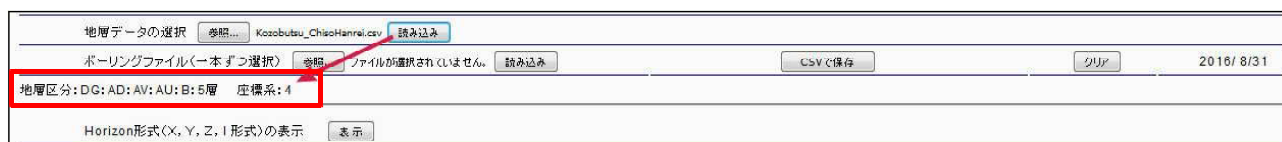


図-10.3.4 地層データの表示(赤枠内)

#### (4) ボーリングデータの入力方法

- ・ [ボーリングファイル(1本ずつ選択)]と表示されている部分の右にある[参照]ボタンをクリックして、ボーリングデータファイルを1本のみ選択・入力する。
- ・ [読み込み]ボタンをクリックすると、ボーリングデータの「<地層岩体区分>」の登録情報とパラメータデータである地層データを比較して上端深度を抽出し、図-10.3.5のように表示する。
- ・ 引き続き、別のボーリングデータを選択/処理することができる。

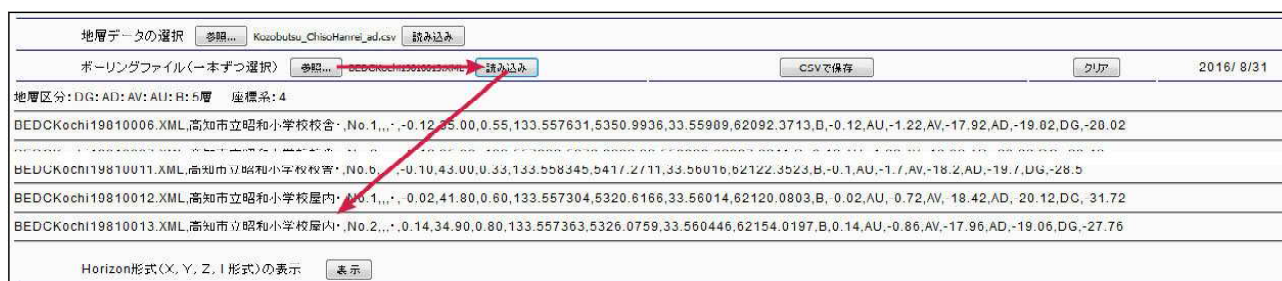


図-10.3.5 <地層岩体区分>登録データの抽出

- ・ 表-10.3.2 は、抽出する<地層岩体区分>データの仕様(並び順)である。
- ・ [CSVで保存]ボタンをクリックすると、抽出データを保存することができる(保存方法は「1.2.1 「ボーリング交換用データ」→メタデータ抽出処理」に同じである。

表-10.3.2 簡易版ボーリングモデルから抽出する<地層岩体区分>データ

ボーリングファイル名, 調査名, ボーリング名, 住所, (将来使用予定), 発注機関名称, 孔口標高, 総掘進長, 孔内水位, 経度(10進数), 東西座標(Y), 緯度(10進数), 南北座標(X), 地層岩体区分1層目の区分名(記号), 同上端深度, 地層岩体区分n層目の区分名(記号), 同上端深度, 地層岩体区分最下層の区分名(記号), 同上端深度
---

#### (5) OCU Geomodeller用入力データの出力方法

- ・ [Horizon形式(X, Y, Z, l形式)の表示]と表示されている部分の右にある[表示]ボタンをクリックすると、図-10.3.6のように、各<地層岩体区分>ごとにまとめられたデータを、OCU Geomodeller用入力データ形式で表示する。なお、図-10.3.6 は、表示上で一番上に位置する[CSVで保存]ボタンをクリックした後の例である。

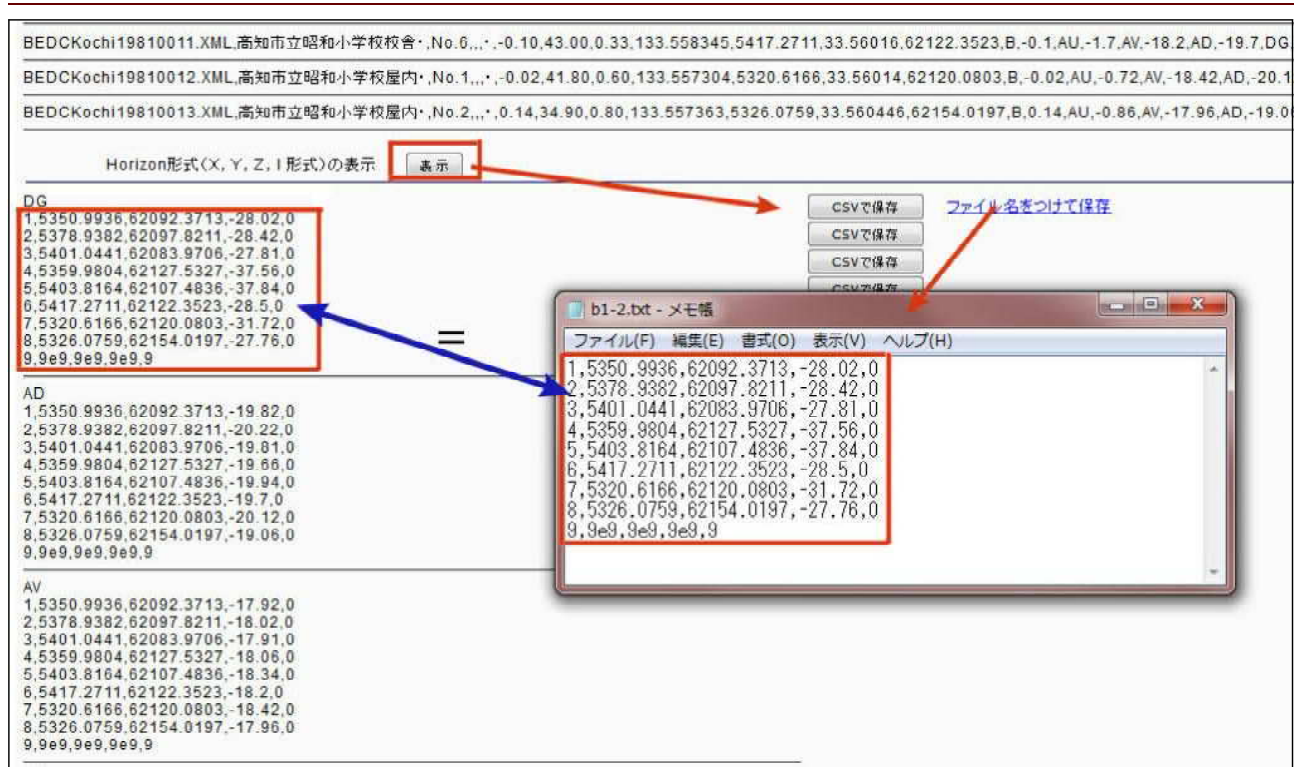


図-10.3.6 OCU Geomodeller用入力データ(Horizon形式(X, Y, Z, I形式))の出力

- ・OCU Geomodeller用入力データファイルは、各地層区分ごとの個別ファイルとなっており、本ウェブで作成した入力データファイルも、それぞれの地層区分に分けて保存するようになっている。
- ・図-10.3.6のように、地層区分数に等しい[CSVで保存]ボタンが表示されるので、順にボタンをクリックして、個別のファイルに保存するとよい。
- ・入力データ保存する場合、ファイル名に数字を使用する場合には、基盤層を「b1.txt」のように一番小さな数を付与するとよい。

名前	サイズ	種類
b1.txt <b>基盤層</b>	1 KB	テキスト
b2.txt	1 KB	テキスト
b3.txt	1 KB	テキスト
b4.txt	1 KB	テキスト
b5.txt <b>地表層</b>	1 KB	テキスト

図-10.3.7 保存した入力データ群(例)

- ・図-10.3.7に例示した「b5.txt」は、孔口の標高である。もし、「2.2 標高データの取得処理」を利用して国土地理院のウェブサイトからDEMを取得する場合は、「b5.txt」は作成しなくても良い。

注 「b5.txt」の値はボーリング孔口の標高、国土地理院から取得した場合はDEMデータとなる。もし、DEMデータで不都合が生じる場合は、「b5.txt」のように孔口の標高データを作成すること。